



プレープ・ライフ グループ

第3回 定時株主総会

サン・ライフホールディング 事業報告 2020年4月1日~2021年3月31日



今も新型コロナウイルス感染拡大と闘っておられる皆様へ

ワクチン接種も想定通りに進まず、未だパンデミックの収束時期の見えない中、 現時点において医療の最前線で闘っておられる医療従事者の皆様におかれまして は、その献身的なご努力に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

また、感染によってご自身だけでなく、ご家族等、大変なご不自由を強いられて おられる皆様にも、心よりお見舞い申し上げます。

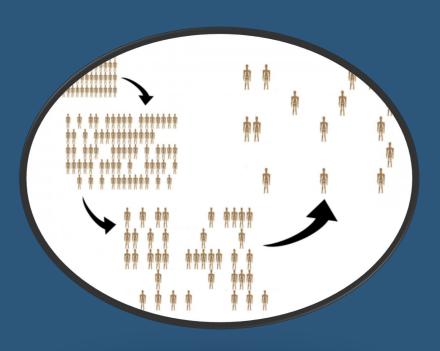
さらに、感染拡大抑制のため休業要請、時間短縮等、事業上大きな障害に直面しておられる皆様、そしてテレワークやリモートによってストレスをお感じになっている皆様、収束状況が見通すことはできない状況ですが、何とかこの苦難を乗り越え、元通りの日常を取り戻すことができるよう頑張ってまいりましょう。



当社を取り巻く経営環境について







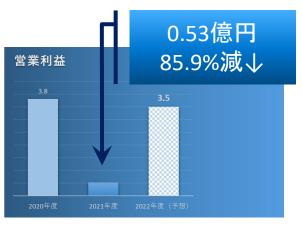
新型コロナウイルスまん延拡大 ⇒人流制限による経済活動の停滞 急速な少子高齢化の進展 ⇒生産年齢人口激減 "支える側"と"支えられる側"のアンバランス 総人口の減少 ⇒国内生産力、国際競争力の低下 人口の低密度化と地域偏在の進行





経営成績の概要









当期の概況

- 当連結会計年度の売上高は、前期比12.8%減の103.22億円、 営業利益は、 前期比85.9%減の5,300万円、経常利益は、 前期比 47.0%減の2.44億円となりました。
- •親会社株主に帰属する当期純利益は1.35億円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失12.56億円)となり黒字化いたしました。

来期の見通し

- 「コロナ後」の状況を見据え、厳しい環境は続くものの、着実な業績回復を目指してまいります
- •次期の連結業績予想につきましては、 売上高110億円(前期比6.6%増)、営業利益3.5億円(前期比551.0%増)、経常利益 4.2億円(前期比71.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は1.9億円(前期比40.4%増)を見込んでおります。





第3期 連結損益計算書 (概要)

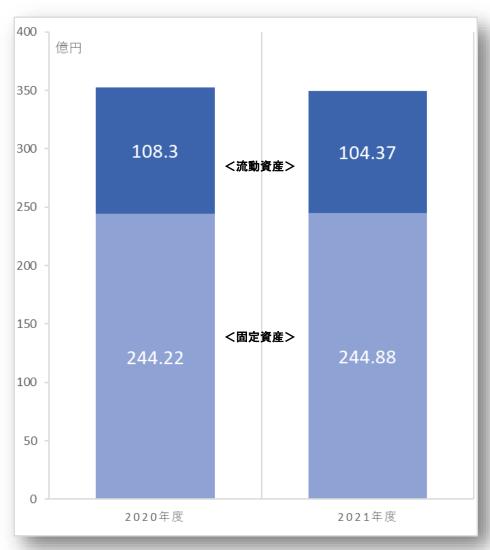
単位:百万円

区分	前連結会計年度 (自2019年4月1日至2020年3月31日)	当連結会計年度 (自2020年4月1日至2021年3月31日)
売上高	11,839	10,322
売上原価	9,418	8,207
売上総利益	2,421	2,114
販売費及び一般管理費	2,039	2,060
営業利益	381	53
営業外収益	124	237
営業外費用	44	45
経常利益	462	244
特別利益	193	19
特別損失	1,219	21
税金等調整前当期利益	△563	242
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,256	135





財政状態の概況(資産の部)



総資産 349.25億円(前年度比 3.27億円減少)

POINT

≪流動資産≫ 現金及び預金の減少

: 4.38億円

≪固定資産≫ 土地及び建物の取得による

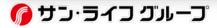
有形固定資産の増加:2.72億円

のれんの減少等による無形固定資産の減少

: 1.89億円

投資有価証券の売却による減少等、

投資その他の資産の減少:0.16億円





第3期 連結貸借対照表 (概要:資産の部)

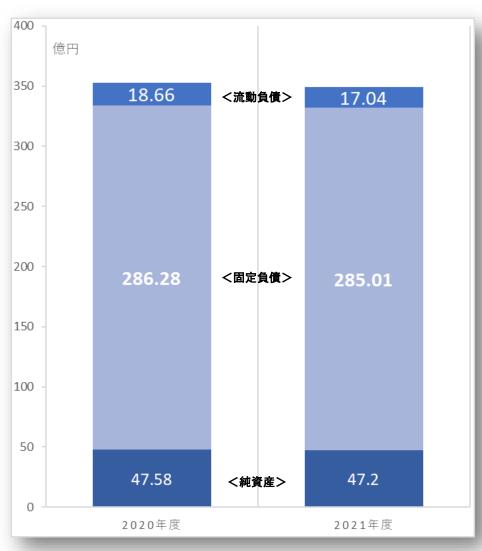
単位:百万円

区分	前連結会計年度(2020年3月31日)	当連結会計年度(2021年3月31日)
流動資産	10,830	10,437
現金及び預金	9,338	8,899
売掛金	542	562
固定資産	24,421	24,488
有形固定資産	15,145	15,417
建物及び構築物	6,475	6,560
土地	8,039	8,194
無形固定資産	1,848	1,659
投資その他の資産	7,427	7,411
資産合計	35,252	34,925





財政状態の概況(負債・純資産の部)



負債...302.04億円(前年度比 2.89億円減少)

POINT

≪流動負債≫

買掛金、未払金及び未払法人税等の減少 : 1.62億円

≪固定負債≫

前払式特定取引前受金及びその他固定負債の減少等

: 1.26億円

純資産...47.2億円(前年度比 0.37億円減少)

POINT

親会社株主に帰属する当期純利益計上

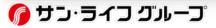
配当金の支払

その他有価証券評価差額金の増加

:1.35億円

: 1.95億円

: 0.22億円





第3期 連結貸借対照表 (概要:負債・純資産の部)

単位:百万円

区分	前連結会計年度(2020年3月31日)	当連結会計年度(2021年3月31日)
流動負債	1,866	1,703
固定負債	28,627	28,501
前払式特定取引前受金	26,848	26,787
負債計	30,493	30,204
株主資本合計	4,731	4,670
資本金	100	100
資本剰余金	761	761
利益剰余金	4,555	4,494
自己株式	△685	△685
その他の包括利益累計額	25	48
純資産合計	4,758	4,720
負債・純資産合計	35,252	34,925

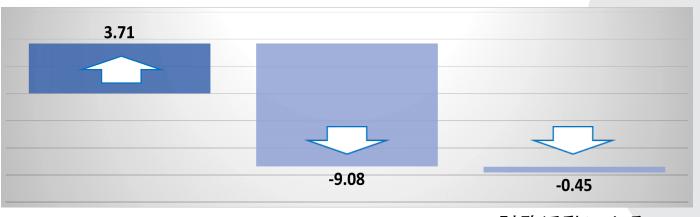




キャッシュフローの概況

現金及び現金同等物 期首残高

95.71億円



投資活動による

キャッシュフロー

財務活動によるキャッシュフロー

現金及び現金同等物 期末残高

> 89.92億円 (△5.79億円)

<u>営業活動によるキャッシュ・フロー</u> +3.71億円

•主な収入要因として、 税金等調整前当期純利益2.42億円、 減価償却費5.79億円があった一方、法人税等の支払額 3.72億円等があったことが主 たる要因です

投資活動によるキャッシュ・フロー ▲9.08億円

• 有形及び無形固定資産の取得による支出8.93億円、定期預金預入による支出1.5億円があった一方、投資有価証券の売却による収入1.58億円があったことが主たる要因です

財務活動によるキャッシュ・フロー ▲0.45億円

•配当金の支払額1.95億円があった一方、 短期借入金の収入1.50億円があったことが要因です

営業活動による

キャッシュフロー





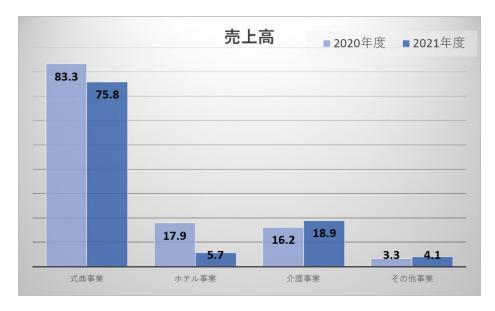
第3期 連結キャッシュフロー計算書(概要)

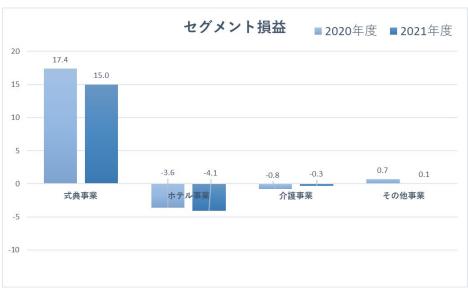
単位:百万円

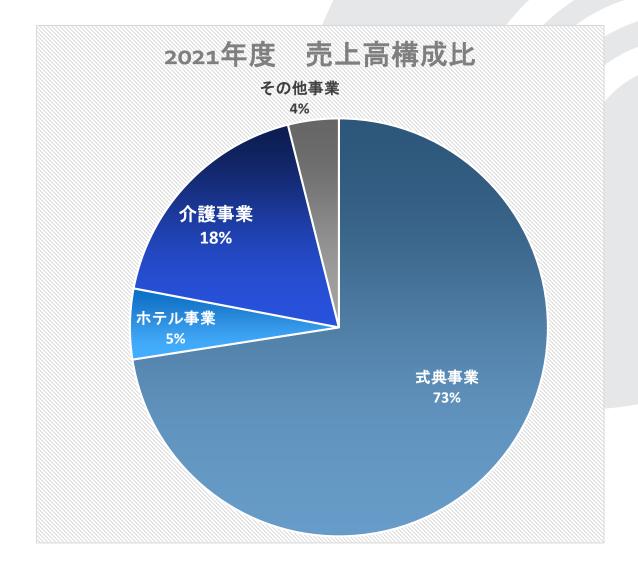
区分	前連結会計年度 (自2019年4月1日至2020年3月31日)	当連結会計年度 (自2020年4月1日至2021年3月31日)
現金及び現金同等物の期首残高	11, 914	9,571
営業活動によるキャッシュ・フロー	565	371
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△563	242
減価償却費	616	579
減損損失	1, 171	_
のれん償却額	75	173
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2, 311	△908
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,136	△893
財務活動によるキャッシュ・フロー	△597	△45
配当金の支払額	△226	△195
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,343	△579
現金及び現金同等物の期末残高	9,571	8,992



セグメント概要









-

式典事業

ご葬儀1件あたりの売上高は外出自粛によるご葬儀の小規模化の影響により減少しました。

2020年7月より安全対策を図りながら、施設のイベント(見学会、相談会)を実施し始めております。ご葬儀のご用命をいただけるよう、施設のイベントのほかWEB広告やオンライン相談などを強化してまいりました。

2020年度は、4件の家族葬対応施設(ファミリーホール)を開設しました。2020年4月に「ファミリーホール聖蹟桜ヶ丘」(東京都多摩市)、5月に「サン・ライフファミリーホール藤沢大庭」(神奈川県藤沢市)、12月に「西湘ホール」(神奈川県足柄下郡真鶴町:既存施設の隣地に新規建設)、2021年2月に「サン・ライフファミリーホール大井松田」(神奈川県足柄上郡大井町)をそれぞれ開設し、ご葬儀件数は増加しました。また、20年2月より東京都八王子市にあります「東京霊園」の管理運営を受託する高尾山観光開発株式会社がグループ業績に通年で寄与しております。

これらの結果、売上高は前期比9.0%減の75.79億円、のれん償却費の計上等により、営業利益は前期比13.9%減の14.99億円となりました。





ホテル事業

2020年4月7日、2021年1月8日の二度の緊急事態宣言の発出、および感染者数拡大が止まらないことから、予定しておりましたご婚礼、ご宴会、ご宿泊、レストラン、イベントの多くが中止もしくは延期となりました。

そのような情勢の中、フォトウェディングのご提案推進、お弁当、ホテル料理やスイーツの販売など強化したものの、売上高は前期比69.6%減の4.75億円、営業損失は4.05億円(前期は3.63億円の営業損失)となりました。











介護事業

介護サービスご利用者の増加とサービス向上に努めてまいりました。2019年10月よりデイサービス、ショートステイを中心とする「エミーズ鴨宮」(神奈川県小田原市)、「エミーズ東間門」(静岡県沼津市)、「エミーズ原」(静岡県沼津市)が加わったことによりグループ業績に通期で寄与しております。

これにより売上高は前期比16.3%増の18.86億円となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛によるサービス利用の減少や新規入居制限などもあり、営業損失は3,200万円(前期は800万円の営業損失)となりました。



エミーズ鴨宮



エミーズ東間門



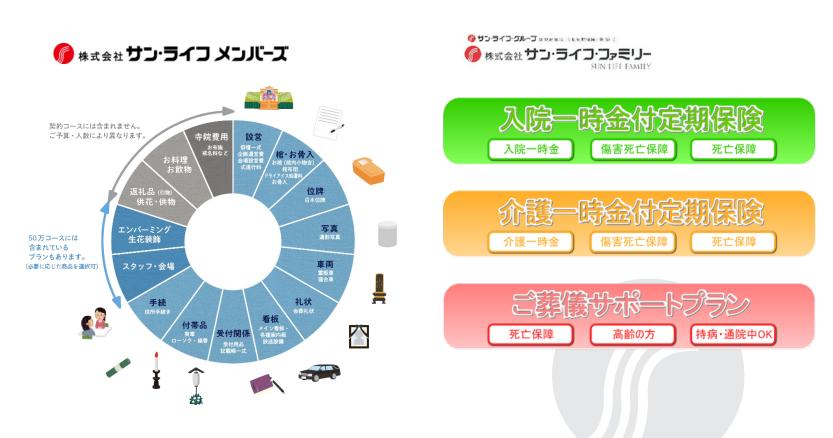
エミーズ原



その他事業

少額短期保険収入の増加、2019年11月よりハウスクリーニング、業務用清掃を主要業務とする株式会社スキル(神奈川県平塚市)が加わったことによりグループ業績に通期で寄与しております。

売上高は前期比18.0%増の3.8億円となりましたが、営業費用の増加等により、営業利益は前期比78.3%減の1,400万円となりました。



DUSK!N ダスキン スキル

Servicemaster.

プロのお掃除 サービスマスター

merry maids.

お掃除代行 メリーメイド

縁と花のお手入れ

Total Green

庭木のお手入れ トータルグリーン



経営基本方針について



イフである、発展する

お客様 信

訓



経営理念(VISION)

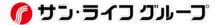
私たちサン・ライフグループの基本経営理念は、

ライフステージ全般の事柄について、

地域の皆様が充実した生活を送れるよう貢献することにあります。



当社グループを取り巻く経営環境について





当社グループを取り巻く環境 = **VUCA**

急速に進展する少子高齢化、

将来確実に訪れる総人口の減少、

従来の標準的な人生設計の崩壊、

第4次産業革命ともいうべき産業構造の大転換等、

当社グループは経営環境の激変に直面しております。

これらに加え、新型コロナウイルス感染拡大は、伝統的価値観の変容及び社会構造の変革を加速していると言っても過言ではありません。

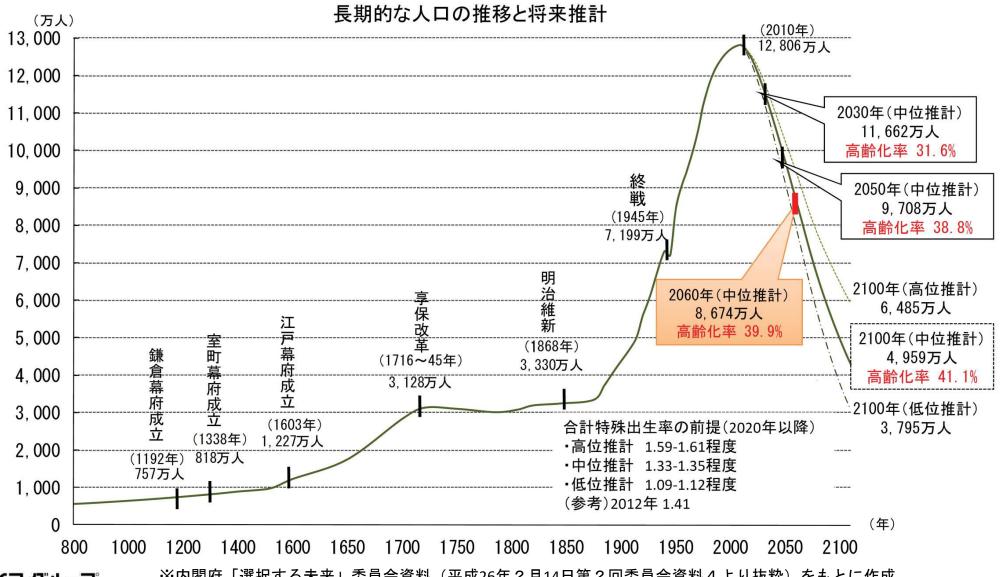
既存の価値観やビジネスモデルなどが通用しない時代であると認識しております。

用語	状態 	例
Volatility :不安定	「これからどのような変化が起こっていくのか」が予測不可能な、 変動が激しい 状態	「スマートフォン」や「SNS」の急速な普及それに伴う営業やマーケティング手法の変化DXの導入促進による新しいサービス提供方法への転換 など
Uncertainty :不確実	不確実な事柄が多く 、「この先、私 たちを取り巻く環境がどう変化して いくのか」がわからない状態	「地球温暖化による気候変動」「副業解禁」や「高齢者の活躍」といった少子高齢化に伴う動き「新型コロナウイルス感染症」による経済への影響 など
Complexity :複雑	さまざまな要素・要因が複雑に絡み 合っていて、単純な解決策を導き出 すのが難しい状態	●国によって差がある「キャッシュレス化」の浸透度合い●既存の枠組みを超えた事業や革新的なアイデア●一般の人による様々な「シェアサービス」 など
Ambiguity :曖昧	「どうしたら、問題を解決できるのか」「本当にこの方法で解決できるのか」、 絶対的な解決方法が見つからない曖昧 な状態	●消費者の価値観は急速に変化・多様化 ●過去の事例を参考にしたビジネスの手法の崩壊 など





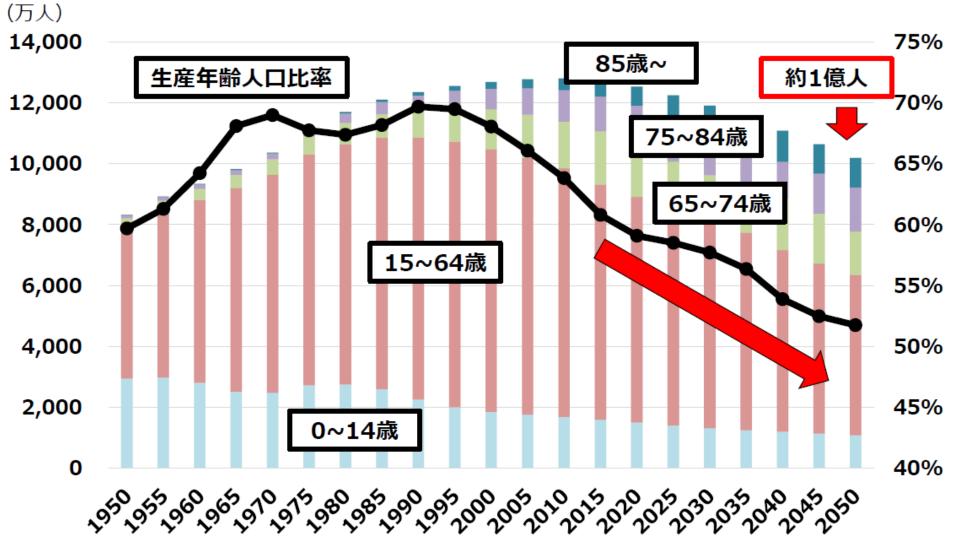
我が国における総人口の長期的推移







我が国における総人口の推移(年齢区分別将来予測)



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、総務省「人口推計(平成28年)」より作成。

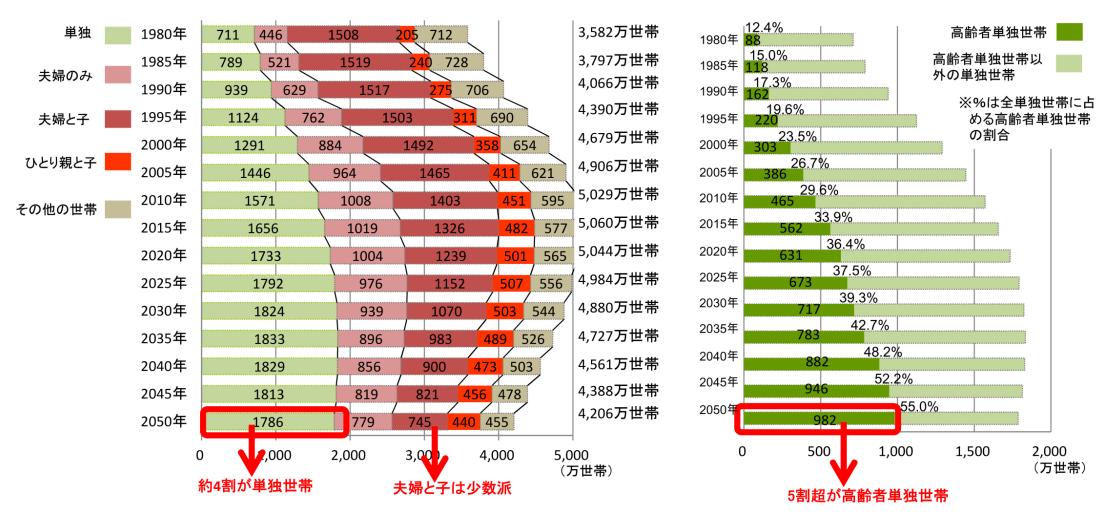




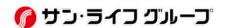
世帯数の推移

世帯類型別世帯数の推移

単独世帯数の推移



出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)





2040年ごろにかけて迫りくる我が国の内政上の危機

若者を吸収しながら老いていく東京圏と支え手を失う地方圏

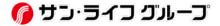
- 東京圏は入院・介護ニーズの増加率が全国でも高く、医療介護人材の地方からの流出
- 東京圏の負担増、地方圏からの資金流出
- 過疎がより進展、耕地・山林の管理困難

標準的な人生設計の消滅による雇用・教育の機能不全

- 世帯主が雇用者として生活給を得る従来の世帯主雇用モデルがもはや標準的ではない
- 経済的に自立できない人々の高齢化が進展
- 若者の労働力は希少化し、公民や組織の枠を超えた人材確保が必須
- 教育の質の低下が、技術立国として国際競争における遅れに

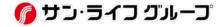
スポンジ化する都市と朽ち果てるインフラ

- 多くの都市で「都市のスポンジ化」が顕在化。加速度的に都市の衰退を招くおそれ
- 東京圏では都心居住が進むが ` 過度の集中は首都直下型地震発生時のリスクに
- 高度経済成長期以降に整備されたインフラが老朽化し、更新投資が増加





想定される大規模地震 我が国の中枢機能の 20mを超える大きな津波 被災が懸念 日本海溝·千島海溝周辺海溝型地震 根室沖:30年以内に地震が発生する確率:60% 首都直下地震 など様々なケース 南関東域で30年以内にM7クラスの地震が 発生する確率:70%程度 西日本全域に及ぶ超広域震災 相模トラフ沿いの海溝型地震 南海トラフ地震 30年以内に大正関東地震タイプなどM8クラス の地震が発生する確率:ほぼ0~5% 30年以内にM8~M9クラスの大規模地震が発生 する確率:70%程度 老朽木造市街地や 文化財の被災が懸念 中部圈·近畿圏直下地震 海溝型地震

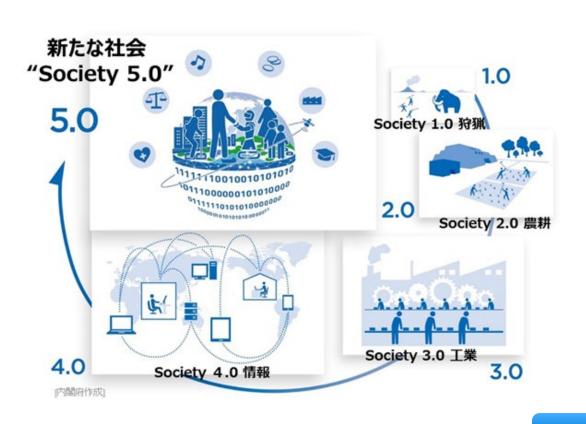


直下型地震



SOCIETY 5.0

Society5.0は、AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿であり、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会



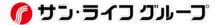


Society5.0 For SDG s

Healthcare in Society5.0



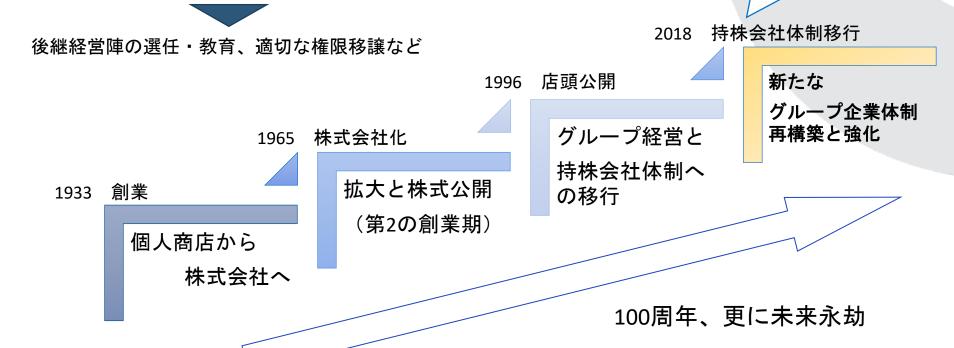
当社グループの対処すべき課題について



対処すべき課題①

次世代経営陣への事業承継

- 当社の歩み、経営環境の変遷等に対する的確な歴史認識
- 理念・方針の正確な伝承
- 将来に向けての確固たる明確なビジョン
- 新たな時代を切り開く力強いリーダーシップ



【第3の創業期】スタート

新市場区分移行

コーポレートガバナンス改訂 DXの推進 CSR(企業の社会的責任)

ESG(環境・社会・ガバナンス)

SDGs(持続可能な開発目標)...etc



対処すべき課題②

上場持株企業としてのグループ経営の再構築

- 持株会社として、グループ全体の事業ポートフォリオの機動的な見直しを実施することで、経営環境の変化に応じた迅速かつ果断な経営判断を通じ、グループ全体の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図る。
- 取締役会の監督機能を強化し、更に監査等委員会 設置会社として、グループ全体を包括するコンプライア ンス体制、リスク管理体制、内部監査体制を充実さ せ、当社グループ全体のガバナンスを強化
- 「新しい生活様式」、「変化する社会構造」、「働き方 改革」に対応した経営
- ・ コーポレートガバナンスコードを指針とし、「CSR(企業の社会的責任)」、「ESG(環境・社会・ガバナンス)」、「SDGs(持続可能な開発目標)」を意識







対処すべき課題③ ~強靭な事業基盤の確立

ビジネスモデルの再構築

施設集客型モデルの見直し(ホテル・ブライダル事業)

ブランド戦略再構築(式典事業)

介護事業における人材確保

互助会事業の戦略見直し

新規事業の積極的な展開





対処すべき課題④ ~更なる経営基盤・財務基盤強化のための経営戦略







新型コロナウイルス感染症拡大による影響、 及び今後の見通しについて

厳しい経済環境の中、コストダウンの徹底や生産性の向上、組織改革の実行などに取り組んでまいりましたが、今般の新型コロナウイルス禍によって大きな影響を受けております。

当社グループの業績だけでなく、その影響は、国内全体においても未曽有の経済危機を招いており、今後も私たちの暮しや経済活動にも大きな変化をもたらしていくものと考えております。

こうした変化への備えは重要であり、長期ビジョン、 中期戦略を確実に推進していくことによって、変化を 乗り越え力強く邁進してまいります。

新型コロナウイルス感染症だけでなく今後起こりうるパンデミック等への徹底した対策

お客様、当社グループ内における感染防止及び感染拡大防止策の徹底

現在の業績・景気低迷に対する足固め

不急の投資案件の見直し、徹底した経費の削減、 コストダウンの積み増し、手元流動性の確保など

景気回復への備え

環境の変化に対応可能な経営計画の柔軟な見直しと運用、今後の働き方改革に対応した社内体制の見直し、サプライチェーンの変化への対応、従来のビジネスモデルの再構築、新たなビジネスチャンスの模索など



TOPICS





トピックス1

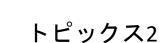
サン・ライフサービス設立 (2020年8月)

新たに株式会社サン・ライフサービスを設立し、 当社連結子会社である株式会社サン・ライフの 事業の一部(ホテル・ブライダル事業)を会社 分割(吸収分割)し、それらの事業を新設会 社に承継いたしました。

ホテル・ブライダル事業における競争力強化ならびに、当該事業の枠にとらわれず、顧客ニーズに沿った新たな事業への取り組みを図るべく、同事業に関する新会社を設立し、同事業にかかる資産等を会社分割の手法を用いて新設会社に承継いたしました。これにより、経営責任の明確化、経営判断の迅速化を実現し、当社グループの更なる企業価値の向上を目指してまいります。

	分割会社	新設会社
名称	株式会社サン・ライフ	株式会社 サン・ライフサービス
所在地	神奈川県平塚市馬入本町13番11号	
代表者の氏名・役職	代表取締役社長 比企 武	
事業内容	式典・介護事業	ホテル・ブライダル 事業他
資本金	100百万円	50百万円
設立年月日	1970年12月10日	2020年8月7日
発行済株式総数	6,820,000株	1,000株
決算期	3月31日	3月31日
大株主及び株主比率	当社100%	当社100%





創業88周年キャンペーン

当社グループは、1933年の創業以来、 2021年を以て「88周年(米寿)」を迎 えます。

また、2023年の「90周年」のプレ周年企画として、これまでの皆様への感謝の意を込めて、様々なイベント、キャンペーン等を計画しております。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては計画を変更することがあります。ご留意ください。





トピックス3

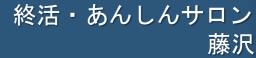
"終活・あんしんサロン" オープン

"終活・あんしんサロン"は、「皆様のご家庭でのお祝い事から、ご葬儀、相続相談まで、トータルライフでのお手伝い」を目的とし、お気軽にお越しいただける地域密着型の店舗です。

2020年6月に、藤沢店のオープンを皮切りに、2021年3月には八王子店を、同年4月には、"WEDDING PHOTO Ange"を併設する、フォトウエディング、七五三、成人式などにも対応する"WEDDING 終活・あんしんサロン 湘南平塚"をオープンいたしました。

お客様へのきめ細かいサービスに対応していけるようこれからも店舗網を拡げてまいります。

WEDDING PHOTO Ange







終活・あんしんサロン 八王子







トピックス4

トータルライフサポートの拡充

スキル





ご家庭から事業所まで、信頼の清掃サービスでお客様のご要望にお応えします。

一般のご家庭の清掃からオフィス、飲食店、病院や工場、大型テーマパークに至るまでトータルな環境衛生の提案を行い、お掃除サービスを提供しています。特に事業所のお客さまには、施設管理のエキスパートとして、環境整備の管理運営をトータルにサポート。ご葬儀後のアフターフォロー事業の拡充等、当社が目指す「トータルライフ事業」に重要な役割を果たしていくと考えています。











東京霊園は、1964年の開園以来、宗教不問の高級公園墓所として高いブランド力を維持しており、八王子地区を中心に優良なご契約者基盤を確立しています。

一方、当社グループは、主に神奈川県湘南・県央地区並びに八王子を中心とする西東京地区において冠婚葬祭互助会会員様向け中心に地域密着型トータルライフサポートサービスを提供しています。

このうち、西東京地区は、東京霊園ご契約者様の地域分布とほぼ重なり、東京霊園ご契約者様に対しても当社グループの各種サービスを提供することが可能となり、当社グループの既存事業と霊園事業のシナジー効果によるビジネスチャンスの拡大につながっております。



高尾山観光開発 (東京霊園)

~一貫した質の高いグリーフワークの実現





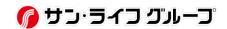
剰余金の配当等の決定に関 する基本方針

当社は、配当金について、事業年度ごとの利益の状況、将来の事業展開などを勘案しつつ、安定した配当を維持するとともに株主の皆様への利益還元に積極的に努めてまいりました。

この方針のもと、当期の年間配当金につきましては、1 株につき16円とさせていただきます。なお、中間期において、中間配当金1株につき16円を実施いたしておりますので、当期の年間配当金は1株につき32円となります。今後とも株主の皆様の支援に報いるため増配を常に念頭におき事業の発展に努めてまいります。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化 及び将来にわたる安定した株主利益の確保、事業の 拡大及び投資のために有効活用していきたいと考えて おります。

	2020年 3月期	2020年 3月期	2020年 3月期 (予想)
第2四半期 (中間)	16円00銭	16円00銭	16円00銭
期末	16円00銭	16円00銭	16円00銭
合計	32円00銭	32円00銭	32円00銭
配当金総額 (合計)	201百万円	195百万円	_
配当性向 (連結)	_	144.9%	103.2%
純資産配当率 (連結)	3.6%	4.1%	





2022年3月期 連結業績予想

当社は、機動的かつ柔軟な経営判断を行い、顧客ニーズを的確に捉え、安全を確保しながら更なる顧客満足度の向上、新たな市場・顧客開拓を行い、企業価値の向上を目指してまいります。

同時にコスト競争力の強化、危機管理体制の整備、コンプライアンスといった取り組みを継続し、経営基盤の強化を推進してまいります。

	第2四半期 (累計)	通期
売上高	50億円	110億円
営業利益	△1億円	3.5億円
経常利益	△0.6億円	4.2億円
親会社株主に帰属する当期純利益	△1.6億円	1.90億円
1株当たり当期純利益	_	31.02





ご質問等について

株主の皆様から事前にご質問をお送りいただいたものにつきましては、本総会の目的事項に関する ご質問で皆様のご関心の高いと思われますものを、当日までに当社IRサイト内の質疑応答ページ にてお答えさせていただく予定です。

以下の方法によりご送付、ご送信されることにつきご協力をお願い申し上げます。

なお、いただいたご質問について必ずご回答することをお約束するものではありませんので、あらかじめご了承願います。

(書面の送付先)

株式会社サン・ライフホールディング 第3回定時株主総会事務局 FAX:0463-22-0851

(電子メールの送付先)

当社 I Rサイト https://ir-sunlife.com/ 内









ありがとうござい ました

https://ir-sunlife.com/

代表取締役社長 比企 武